四国大学食堂改修設計施工コンペティション　審査結果

令和８年５月２９日

【ご挨拶】

学校法人四国大学理事長　佐藤　一郎

今回、大学食堂の改修について設計施工コンペティションを実施しましたところ、各チームから大変素晴らしいご提案をいただき、本当にありがとうございました。

最優秀賞に選ばれました『つむぐ・つながる・はばたく』という作品、これは本学の 100 周年の標語でもありましたけれども、提案チームの皆様、本当におめでとうございました。また、惜しくも採用には至りませんでしたけれども、各チームの皆様方の素晴らしいご提案、本当にありがとうございました。ご提案への意欲や大学の考え方の一助になりたいという熱意を、ひしひしと感じたところです。

さて、我が国の少子化がどんどん進んでおり、中央教育審議会の答申でも、2040 年には日本の 18 歳人口は今の数の４割を切るという数値が出ています。これはもう確定した未来ということで、どう足掻いてもそれだけの数が減っていく。一方で、モノあるいはサービス、こういうようなものはどんどん豊かに立派になってきており、そういう時代に育った子供たちが大学へ入ってくる時代だということであります。

このため、大学としては、研究・教育課程や教員組織の充実のみならず、課外活動や今回の食堂、あるいは学生寮のような学生生活をきちっとサポートする、そういうキャンパスの環境の整備も同時に進める必要があると考えております。加えて、本学は田園に囲まれており、キャンパス外で学生生活を楽しむというのはなかなか難しい環境にあります。今回の食堂改修というのは、学生生活を少しでも有意義に、また学生が集って相互に刺激し合い成長し合う場となるよう整備する、そのような意義もあると考えております。

ところで、本学は、昨年 11 月、学園創立 100 周年を迎えました。今年はその続きの事業もやっておりますけれども、これから 101 年目、次の１世紀に向かって発展を遂げていかなければいけない、そういうスタートを切る契機として、この食堂改修に取り組みたいと考えています。また、来年、新しいデジタル創生学部の校舎ができ、横にはアリーナも完成します。その竣工と合わせて、キャンパスの中央部分の景観が、この食堂の改修によって一新されるという大きな期待も寄せているところです。

最後になりますが、本日のこの審査にあたりまして、労を執ってくださいました古谷委員長はじめ委員各位に感謝を申し上げ、また改めてコンペにご参加をいただきました皆様方の今後益々のご発展を願いながら、私のご挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございました。

【審査総評】

四国大学食堂改修設計施工コンペティション
二次審査委員会審査委員長
（公益社団法人日本建築士会連合会会長）
古谷　誠章

皆様からそれぞれ大変素晴らしい案をお寄せいただきまして、ありがとうございました。

いずれも立地条件や大学からの改修のご要望に見事に答えていただき、優れた提案をお寄せいただいたと思います。また、当コンペティションを企画実行していただいた四国大学関係者の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。

実は学生・教職員の得票結果も、１位と２位、あるいは３位と４位と拮抗した票数を集めており、それぞれに魅力があったと受け止められたのだと思います。学生諸君の得票傾向と、

教職員の皆さんの得票傾向は大きくは変わりませんでした。
　また、本日のプレゼンテーションは、応募された皆様にもすべての発表を見ていただきました。それぞれ別室で発表・ヒアリングを行う場合もありますが、お互いに提案された方同士が、提案の内容を聞くことができることで、各案の優れたところなどをお互いに見て、ご自身の提案とも見比べ､今後の皆様の活動に資するような機会としていただければと考えて、このような公開の形で開催させていただきました。これにも皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

最優秀賞　受付番号③

作　品　名：「つむぐ、つながる、はばたく」
提出団体名：株式会社かたちとことばデザイン舎　（代）高橋　広樹
設　計：株式会社かたちとことばデザイン舎　（代）高橋　広樹
施　工：株式会社坂本工務店　（代）坂本　新太郎

　最優秀賞に選出された受付番号③の『かたちとことばデザイン舎』の提案。これは、パネルで見ていた時と、プレゼンテーションを聞いてからよく見直してみると、とても細かいところまで整緻に考えられているなということが分かりました。正面に入ったところの突き当たり、厨房の前のルーバーによる新しい壁は、パネルではあまり強く表現されていないのですが、実際にはすごく効くと思います。 空間が刷新された感じがするし、正面の長い壁がルーバー壁になることで、館内全体が生き返る効果があるなと、とても感心いたしました。
　もう一つ素晴らしかったのは、淡々としてあまり複雑に手の込んだ座席配置に見えないのですが、提案の中では唯一、テーブルの配列ではなく通路の幅のほうに注目して、交通量の多いところには広い幅を、だんだん端部に行くに従って幅が縮小されていくという、通路幅にヒエラルキーを設けるというところが独創的であり、そこに座席配置のベースを置いたところに実効性があり､効果が期待されます。 しかも学園祭の時や何かに模様替えをしようという時に、多目的にフレキシブルに、全部取っ払うこともできるような、そういう変換の容易さもあって、その他の細々とした多くのアイデアも含めまして、一つ一つに緻密さが感じられて、この中では頭一つ出てるかなという感じで、最優秀賞にさせていただきました。

金賞　受付番号④

作　品　名：「食べるを真ん中に、交流がにじむ食堂」
提出団体名：一般社団法人もりまちレジリエンス　（代）鎌田　晃輔
設　計：島津臣志建築設計事務所　（代）島津　臣志
施　工：株式会社誉建設　代表取締役　（代）鎌田　晃輔

　金賞を受賞された受付番号④の『もりまちレジリエンス』の提案は、大学側からの要求・期待に対して真摯に応えて非常にスマートに答えを出していただきました。大学会館内が空港のクラブ・ラウンジであるかのような、クオリティの高い食堂に生まれ変わることが期待されました。
　一方で、館の前の屋外の空間に対する提案が少し淡白で、館内が良くなるのももちろん大事ですが、今回できる新学部棟、アリーナ棟とも相乗効果を持たせられるように、屋外空間にもう少し人を惹きつける魅力が加われば、もっと良かったと感じられたところもありました。

銀賞・特別賞（学生・教職員による学内投票最多得票者）　受付番号⑤

作　品　名：「みんなの居場所 シコダイカフェ」
提出団体名：株式会社姫野組　（代）姫野　敬行
設　計：環境デザインワークス一級建築士事務所　（代）清水 裕且
施　工：株式会社姫野組　（代）姫野　敬行

　学生・教職員から一番多い事前得票を獲得したボードを提案したのが、受付番号⑤の『株式会社姫野組』チームの提案です。

他のどこよりも、非常に精力的でエネルギッシュな提案をしていただきました。食堂にある３つのゾーンに対してそれぞれに個性的な、三者三様の天井のデザインを作り、空間を特徴づけているのがとても魅力的だと感じました。

また、屋外にも一部に固定的な大庇をかけて、折れ戸の間仕切りによって室内外を一体化するという試みも、とても印象に残るもので、実現したらさぞや良くなるのではないかという、期待する声もあった一方で、開けっぱなしで本当に大丈夫だろうか、実際年間どれぐらい開けて使えるかといった運用上の懸念もあって、最優秀には一歩及びませんでした。それから屋外南側の屋外デッキの構成・材質の選択は、これで大丈夫だろうかという疑念も残ってしまったのが実感です。

受付番号①

作　品　名：「REST HOUSE SELF CAFFE」
提出団体名：新居建築研究所・アズマ建設共同企業体　（代）坂東　譲太
設　計：新居建築研究所　（代）新居　照和
施　工：株式会社アズマ建設　（代）坂東　譲太

提案が絞られる段階で選外になってしまったんですけど、受付番号①の『新居建築研究所・アズマ建設共同企業体』チームの皆さんの提案は、建物前のパーゴラの空間、緑の空間が魅力的で、これができたらさぞや潤いのある、食堂棟前の空間ができるなという期待がありました。

ただ一方で、どうしても分からなかったのが、図面にたくさんの机が描かれている割には、要求された客席数・座席数が満たされていないと表記されているのは、審査の上でどうしても納得がいかないところで、最終的に選に残ることができませんでした。

受付番号②

作　品　名：「多様な学生生活の拠点となるキャンパスリビング」
提出団体名：四方山・米田共同企業体　（代）吉田　涼子
設　計：四方山設計一級建築士事務所　（代）吉田　涼子
施　工：株式会社米田卓司建築事務所　（代）米田　卓司

受付番号②の『四方山・米田共同企業体』チームの皆さんの提案も、食堂を単純に昼ご飯を食べる所というのではなくて、一日のあらゆる時間帯でリビングのようにして使いましょうという、これもとても分かりやすくて、学生諸君が自主的に自分の居場所を見つけて、そこで思い思いに勉強したり交流したりするという、これからの大学になくてはならない空間の提案です。今までの食堂がどちらかというとただの食堂としてデザインされていたものを、みんなのリビングにするためにつくり替えましょうという提案で、これは５つの提案の中で最も優れた着想だったと思います。

ただ、それが多様な居場所を作ろうとする熱意の裏返しでもあるのですが、かなり細かく間仕切り壁のようなものが設置されて、居心地の良そうな小さなコーナーがたくさん生まれるのは良いのですが、じゃあ学園祭の時などに全部パッと取っ払って何かやるかっていう時に、 固定されすぎていて、模様替えがしにくいように感じられたことと、快適そうな面白い大きなソファ・ベンチも設計されていますが、実際にはこれがどういう風に使われるのかなというのが、ピタッとイメージできなくて、そのあたりがもう少し詰められていると、キャンパスリビングとしての説得力がもう一段増したのかなと思われました。

最後になりますが、本当にそれぞれに良いところがいっぱいあり、ただ惜しむらくはと懸念するところもあったり、心配だったりするところもあって、審査委員会の総意に近い形で、受付番号③のチームを最優秀賞に推薦させていただきたいと思います。